

【ちえりあ学習ボランティア企画講座】
人口減少！ 札幌の未来の姿は、私の地域と暮らしはこう変わる～

第4回 私たちは、この変化にどのように向き合えばよいのか。自分の生活を考えてみよう。

原 俊彦（札幌市立大学 名誉教授・日本人口学会理事）

日時7月27日(金) 14:00-16:00

場所 2階 中研 修室2 札幌市生涯学習センター

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 Tel:011-671-2200

1. 超高齢社会とこれからのシニア

2. 超高齢社会への対応

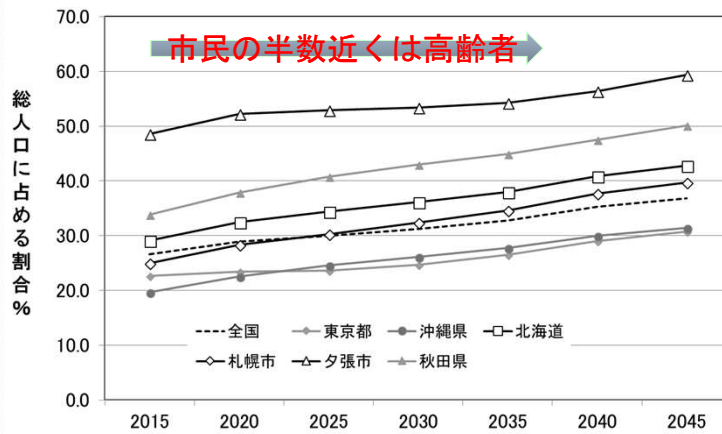
1. 超高齢社会とこれからのシニア

超高齢社会への政策的対応という、非常に難しい問題を考えます。

100歳以上の高齢者（センテナリアン）の急速な増加、健康寿命の延伸、豊かで健康な高齢者の増加など、超高齢社会の光の部分について紹介し、人生100年時代に向かう新しいライフスタイルの提案などを紹介します。また、現行の国全体の社会福祉制度の問題点と、あるべき姿について、私の意見をお話します。

図1：高齢化率の上昇

30年後(2045年)は、全国36.8%、北海道42.8%、札幌市39.7%まで上昇する。

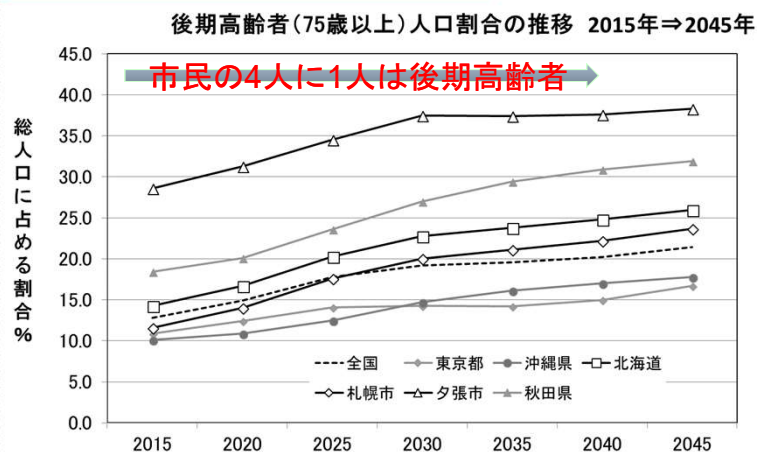


国立社会保障・人口問題研究所(2018)『日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)』

3

図2 超高齢社会の到来

30年後(2045年)は、全国21.4%、北海道26.0%、札幌市23.7%まで上昇



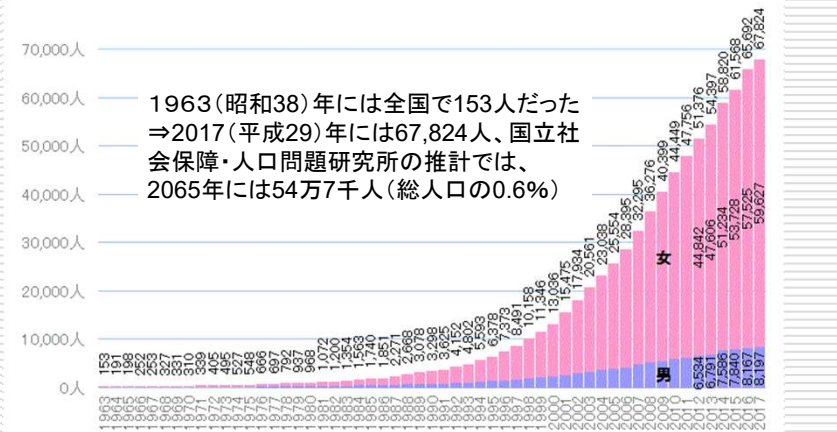
国立社会保障・人口問題研究所(2018)『日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)』

4

図3：センテナリアン

100歳以上の増加（全国・実数）

百歳以上高齢者数の年次推移

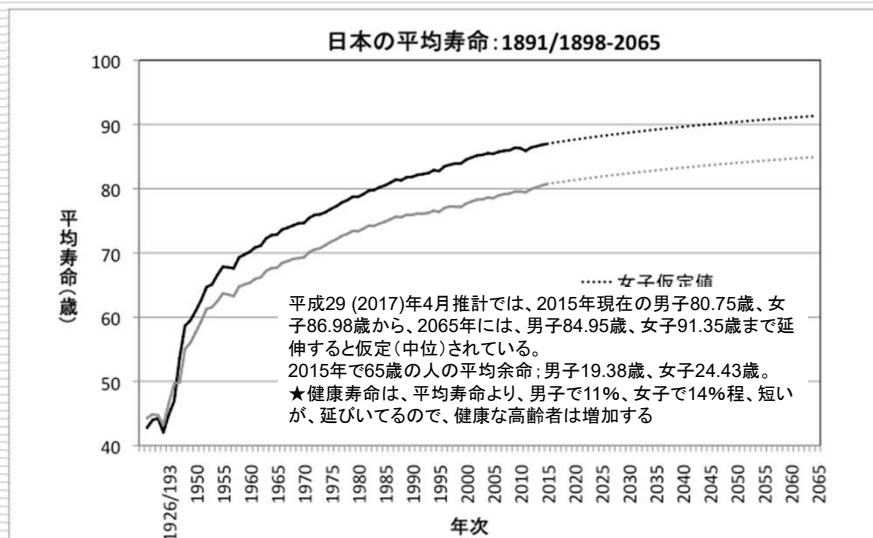


社会実情データ図録(<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/1163.html>) 厚生労働省 老健局

5

平均寿命は男子は85歳、女子は90歳以上になる➡

図4：平均・健康寿命の伸び

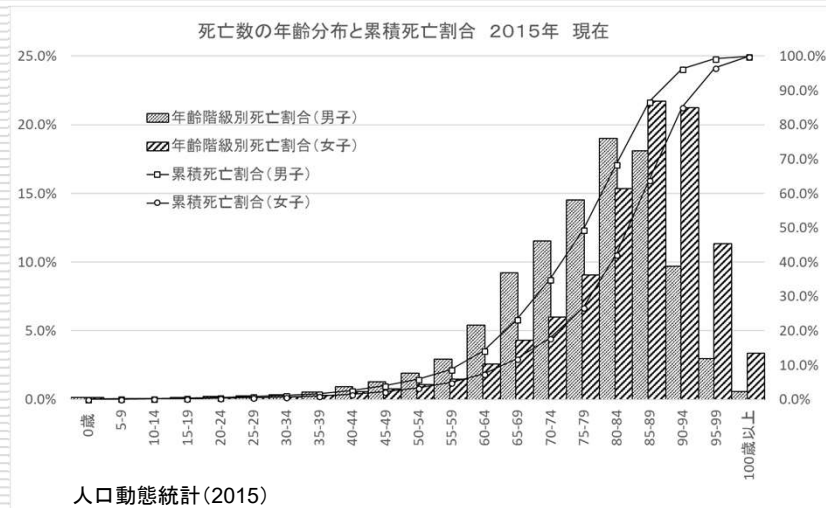


国立社会保障・人口問題研究所(2017)『日本の将来推計人口(平成29年4月推計)』の仮定値

6

図6：何歳で死ぬか？

半数以上は、平均寿命+3年以上生きる



7

表1 シニアはお金持ち

世帯主の年齢階級別貯蓄及び負債の1世帯当たり現在高						単位 万円	
	平均	～ 29歳	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70歳～
持家率(%)	83.9	37.9	56.8	75.5	87.6	94.5	93.7
年間収入	614	451	595	734	814	568	458
貯蓄	1,795	261	587	1,051	1,664	2,544	2,398
負債	521	755	1,003	1,085	607	249	76
貯蓄-負債	1,274	-494	-416	-34	1,057	2,295	2,322

家計調査 貯蓄・負債編 二人以上の世帯 詳細結果表 四半期 2014年4～6月期
総務省統計局：2014年10月31日公表

60歳以上の世帯は、持ち家率は90%以上、
貯蓄高は2300万円

国立社会保障・人口問題研究所(2013)『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』の仮定値

8

新高齢層（ニュー・シニア） どんな人たち？



- 新高齢層（団塊の世代）1947-1949年（昭和22-24年）生まれ＝第1次ベビーブーム層 2015年から全員65歳以上
- 戦後生まれ・最多人口グループ・年金受給・退職引退・実年齢×（50÷80）≒終戦直後の40歳ぐらい。
- 高学歴・ビートルズ世代・ジーンズ・ワイン愛好
- 男性：全共闘→猛烈サラリーマン（企業戦士）
- 女性：アンアン/クロワッサン→ジェンダー意識、嗜好性の強さ

これからのシニア

- 社会の中の多数派・主流→**支えられる人から支える人へ**。同世代＋若い世代をサポートする。
- 超高齢者が多くなる→**未知の世界の開拓者**
- センテナリアン（100歳以上は、現在の10倍）→**めざせスーパー老人！**＊最新の情報では平均寿命は100歳へ！
- **若返り：rejuvenation** 仕事、恋愛、再婚、出産！
- 余生は健康で長生き（平均で男性はあと20年、女性は25年）
- お金もある！（特に団塊の世代）
- **豊かで健康な高齢者の時代**（The Age of Wealthy & Healthy Elderly）の可能性 ＊**ただし格差は大きい。**

社会の支え手として

- 創造性と社会性(creative and social skills) が決め手となる。若い人よりも高齢者の方が有利。
- 体力、知力は機械がサポート。Machine Learning (ML) and Mobile Robotics (MR)など。
- 長い第二の人生(セカンド・ライフ)をどう生きるか?の実験: 働くことが生きがいで、何が悪い!
- 単なる金儲けではなく、社会に役立つ仕事(ソーシャル・ビジネス)を!
- 若年層の就業機会を創出し、未来に希望を与える。
- 「地域創生」の主役!

11

2. 超高齢社会への対応



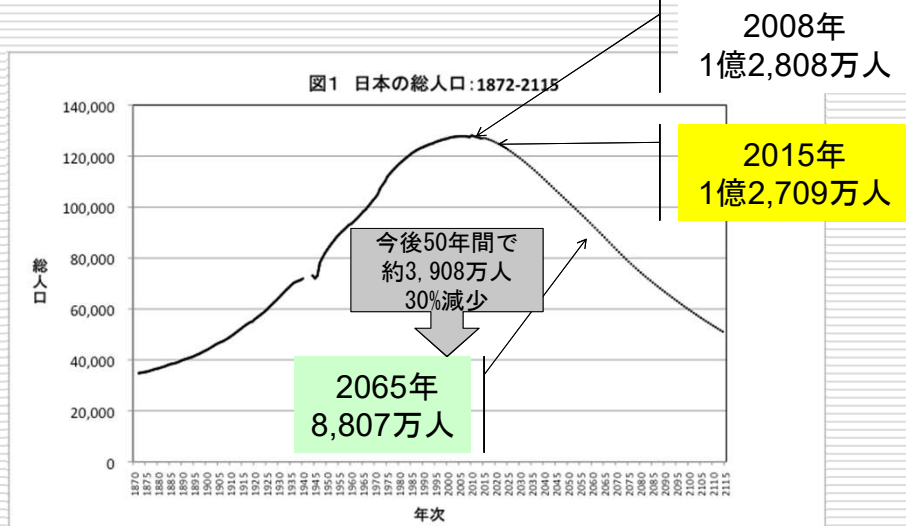
マイ・インターン
THE INTERN 主演ロバート・デ・ニーロとアン・ハサウェイ
<http://www.warnerbros.co.jp/myintern/>
引退後、別の形で現役復帰する



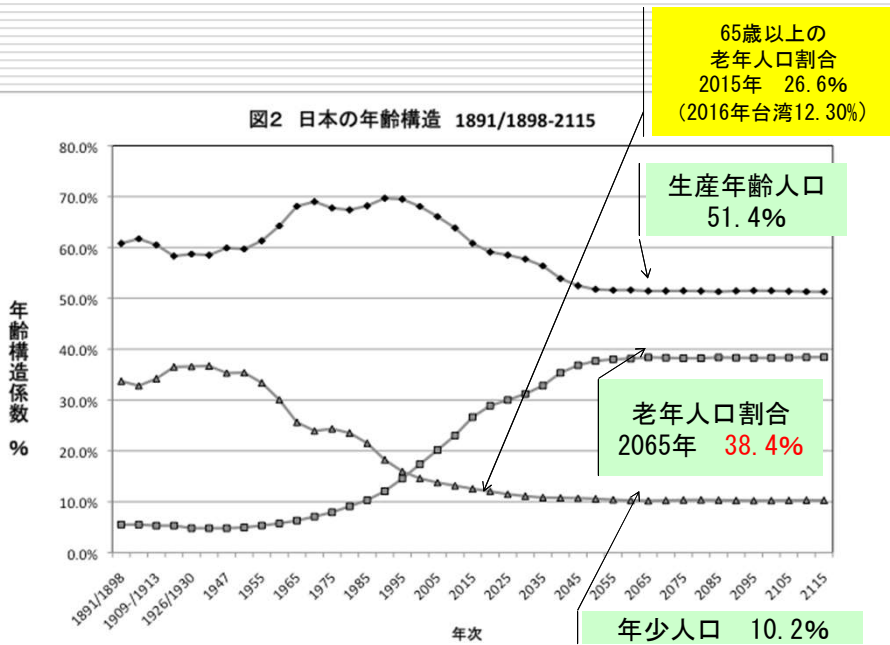
原田マハ、2011、『キネマの神様』
文春文庫 ¥670
アルチューでギャンブル狂いで映画狂の父親とその娘の話。破滅型の老後と呼ぶ奇跡!

12

(1) 日本の人口減少・少子高齢化



出典：総務省統計局監修（2006）「新版 日本長期統計総覧 第1巻」日本統計協会
 国立社会保障・人口問題研究所、2010-2014年は「人口統計資料集2017」の実績値。2015年から2065年までは「日本の将来推計人口（平成29年推計）中位推計」2066年から2115年は参考推計結果による。



高齢者ボランティア推進の必要性

- ボランティアの主力：若者から高齢者にシフト
 - 人口減少⇒ボランティアに動員できる絶対数の不足
 - 少子高齢化の進行⇒高齢者が人口の40%近くを占める。
- 高齢者の生きがい：ボランティアを通じての社会参加
 - 平均寿命・健康寿命の延伸⇒元気な高齢者の増加
 - 退職から死亡までの期間の長期化⇒第二の人生をどう生きるか？
- 高齢者の位置づけ：「支えられる」側から「支える」側へ
 - 高齢福祉制度の見直し⇒受給者から供給者へ
 - 社会的役割(第二の職業)としてのボランティア⇒専門性・経験・知識の活用

(2) 札幌市の取り組み



いつまでも社会参画できる街へ

<https://www.youtube.com/watch?v=P61ziuLGad4>

さっぽろカラフルさんかくプロジェクト

- キャッチフレーズ：□（四角しかく⇒資格）は入りません。どなたでも△（三角さんかく⇒参画）できます。
- 「超高齢・人口減少社会にあっても社会の安心と活力を高めていくためには、高齢の方々が健康と自立した生活を保ちながら、地域の一員として社会・経済を支え、生涯現役で活躍できることが欠かせないものとなります。」
- これからの高齢者の「多彩な社会参画」＝「カラフルさんかく」を応援するため、環境づくり、仕組づくりを進める取組です。
- 「札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会」「社会参加に関する市民意識調査」、「高齢者の社会参加を考えるワークショップ」

札幌市：高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会

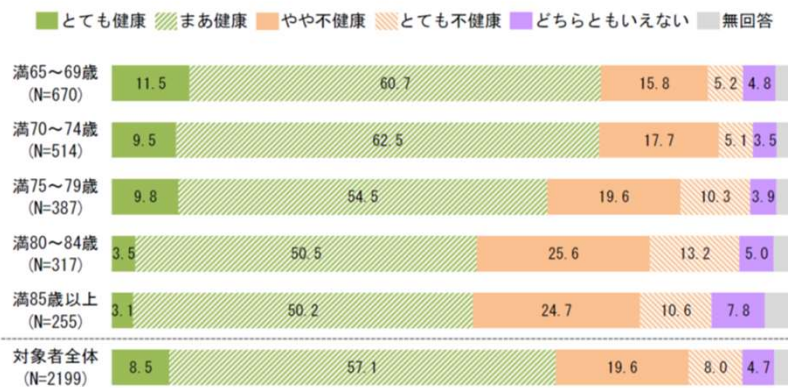
- 2016年4月-8月まで7回開催。
- 高齢者の社会参加の在り方を見直す
- 社会参加に関する市民意識調査の実施
- 従来の社会福祉関連施策の再検討
 - 長生きした「お祝い」から社会参加の「プラットホーム」へ
- 敬老優待乗車証（70歳以上の高齢者への市営交通補助制度）の見直し⇒対象人口の増加・市の福祉予算の大半を占める⇒高齢者の社会参加を推進するためのポイントカード制度の提案など。



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

健康状態は：75歳ぐらいまでは65歳未満と大差なし。
半数以上の人は85歳以上でも大丈夫

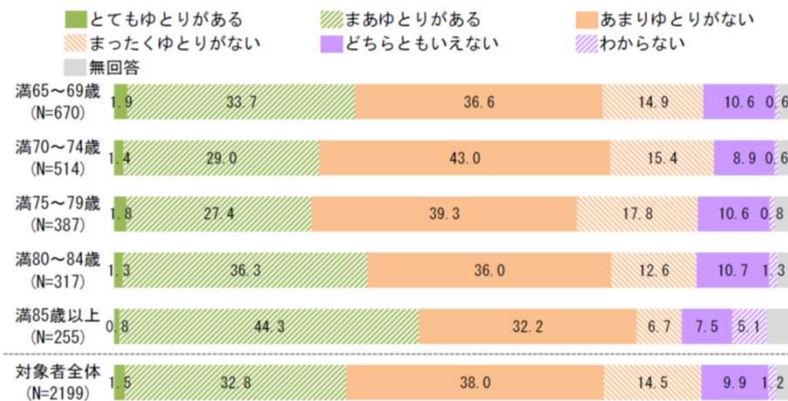
【65歳以上】



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

家計にゆとりのある人は3割程度だが、これは65歳未満と変わりがない。80歳以上の高齢になると、むしろ、ゆとりのある人が増える。

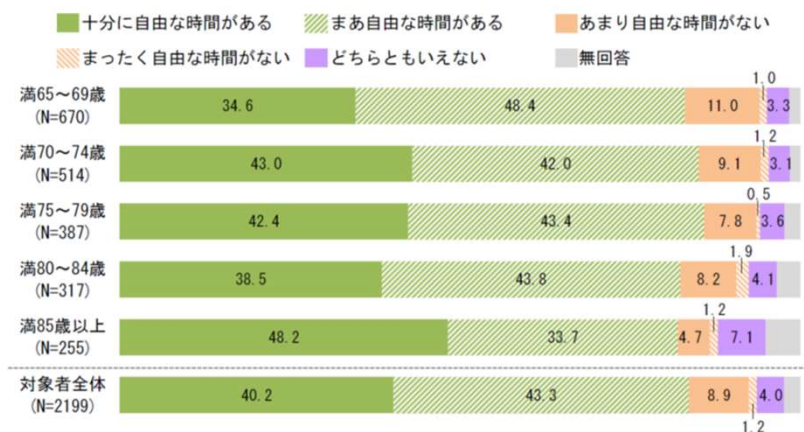
【65歳以上】



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

時間にゆとりのある人は8割以上、これは65歳未満より多い！

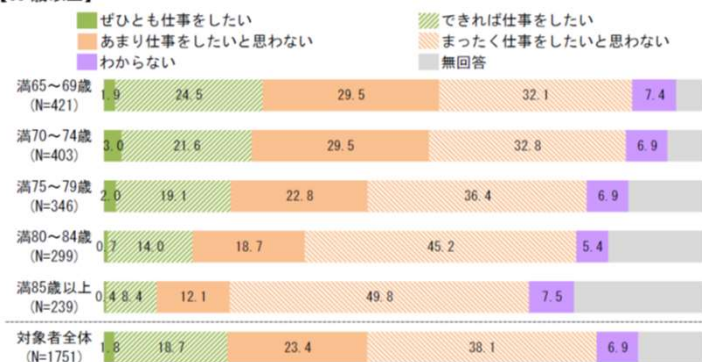
【65歳以上】



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

仕事をしていない人の大部分は、仕事したいと思わない。高齢になるほどその傾向が強まる。

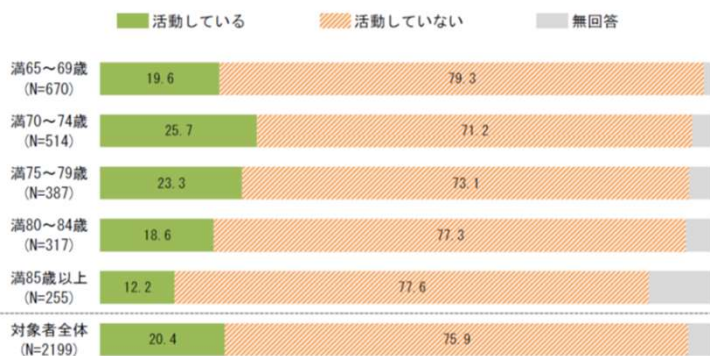
【65歳以上】



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

ボランティア活動している人は2割ほど65歳未満の13.9%より多いが？

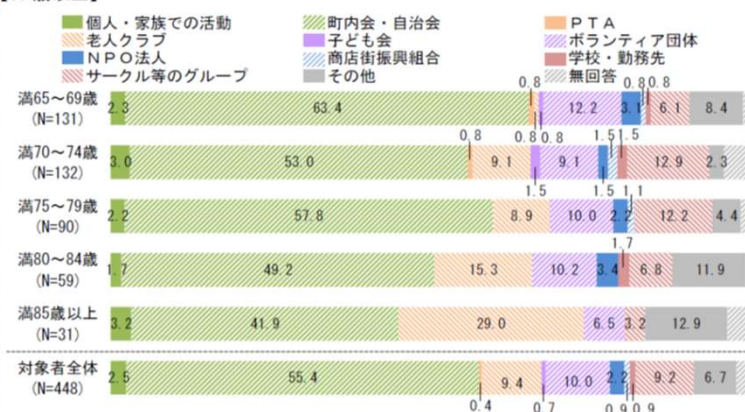
【65歳以上】



「社会参加に関する市民意識調査」の結果から

ボランティア活動している人は半分以上は、町内会・自治体活動

【65歳以上】



(3) 私自身の場合

元気なうちに人生
を楽しもう！

- 2018年3月末で大学を定年退職。
- 65 - 75歳までの10年間は研究活動中心
 - 講義(非常勤)、講演
 - 出版活動: 人口学事典、英書シリーズの刊行、著作
 - 個人HPをベースとした執筆活動
 - 札幌GIS研究会、学会活動(人口学会、家族社会学会、社会学会、北海道社会学会、ISA、IUSSP)
 - 委員会(札幌市、石狩市、厚真町、弟子屈町、厚生労働省など)
- 地域活動: 町内会・栄ヶ丘公園守る会ラジオ体操会会長。
- 国内・海外への旅行(研究関係、個人)
- 家事・健康づくりなどを楽しむ。

参考文献

ご清聴いただき、ありがとう。

大野晃, 2008, 『限界集落と地域再生』 北海道新聞社
カウフマン, F. X., 原俊彦・魚住明代(訳) (2011) 『縮減する社会-人口減少とその帰結』 原書房
国立社会保障・人口問題研究所(2012) 「日本の将来推計人口-平成23 (2011) -72 (2060) 年」 (平成24年1月推計) - 人口問題研究資料第326号
国立社会保障・人口問題研究所 (2013) 『日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計)』 - <http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/t-page.asp>
国立社会保障・人口問題研究所(2017) 「日本の将来推計人口 (平成29年推計) ipss.go.jp/j/zenkoku2017/」
国立社会保障・人口問題研究所(2018) 「日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計)」 <http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>
総務省統計局 (2013) 『日本の長期統計系列』 第2章 人口・世帯』 <http://www.stat.go.jp/data/chouki/02.htm>
国立社会保障・人口問題研究所(2012) 『人口統計資料集2012』 人口問題研究資料第324号
総務省統計局監修 (2006) 「新版 日本長期統計総覧 第1巻」 日本統計協会
(財) 厚生統計協会 (2009) 「我が国の生命表 2009年4月版」 CD-R (財) 厚生統計協会
原俊彦 (2007) 「第7章 地域人口と地方分権のゆくえ」 阿藤誠・津谷典子編『人口減少時代の日本社会』 原書房、pp. 187-208
原俊彦 (2011) 「第1章 人口減少と地方人口構造」 吉田良生・廣嶋清志編『人口減少時代の地域政策』 原書房、pp. 1-22
北海道総合政策部地域主権・行政局市町村課 (2016) 「住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態 (平成27年1月~平成27年12月)」 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/900brr/index2.htm>
増田寛也 編 (2014) 『地方消滅東京一極集中が招く人口急減』 中央公論新書

連絡先: 原 俊彦 (はら としひこ)
札幌市立大学 (名誉教授)
連絡先 (自宅): 〒007-0834 札幌市東区北34条東19丁目3-7
電話-ファクス 011-785-7022
E-mail: t.hara@scu.ac.jp, <http://toshi-hara.jp>